

中期標準化戦略(概要と目的)		専門委員会・AG名	トランスポート・アクセス・エリアNW部門 光ファイバ伝送専門委員会	1/3
企画戦略委員	表 英毅(ソフトバンク)		登録委員数	54人(3グループ)10社
正副委員長 リーダー・サブ	委員長：中島和秀 (NTT)、副委員長：飯塚哲也 (ソフトバンク)		図解	
活動の目的・意義	【SWG2001】 5G・B5Gを支える物理層標準の充実は喫緊の課題であり、200-400Gb/s、B400G/sを見据えた新規技術標準による市場牽引が期待される。 【SWG2002】 光通信の国際的な普及に伴い、光線路基盤の多様化と、安全かつ効率的な保守運用の重要性が益々高まっている。また、光ファイバの特性詳細化と新たな光ファイバ技術による市場牽引も期待される。		別紙参照	
活動する上での課題	光通信先進国として、既存設備の利活用および新規技術の立ち上げの両面で標準化活動におけるリーダーシップを維持・強化する必要がある。			
関連のSDGsゴール	   			
標準化方針	【SWG2001】 200-400Gb/s、B400Gb/sを見据えた陸上システムインターフェース標準の充実 【SWG2002】 - 既存光ファイバ標準（勧告G.65x）の特性詳細化による有効活用の促進 - 空間分割多重光ファイバケーブルに関する新規技術レポートの制定 - 新規要求条件に基づくケーブル勧告の制定と光線路保守運用標準の充実 - 光海底ケーブルのセンシング応用に向けた新規勧告の制定 - IEC連携に基づく光線路技術標準の充実 【SWG共通】 - タイムリーな技術調査と調査結果のアップストリーム活動への反映 - ダウンストリーム活動によるITU-T標準のTTC文書へのタイムリーな反映			
国内外 標準化団体動向	- ITU-T WP2/SG15では200-400Gb/s、B400Gb/sを見据えた標準規格と、光線路設備の充実と運用の効率化に関する議論が継続的に行われており、空間分割多重（SDM）技術に関する議論も活性化しつつある - 光ファイバ、光ケーブル、光部品の標準化活動でIEC TC86と協調 - IEC TC86ではマルチコア光ファイバ用コネクタの試験標準、およびSDM光増幅に関する議論も進められている			

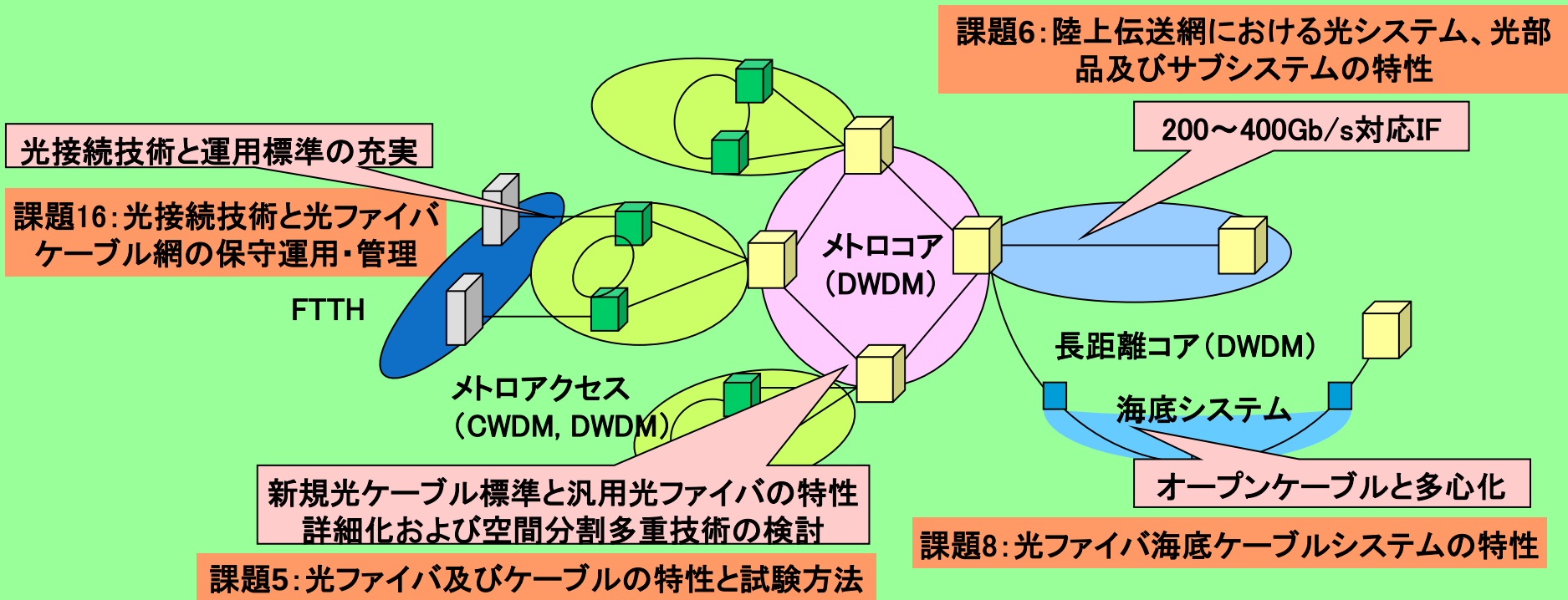
1

2/3

2

新テーマ及び重点取り組み	・ TR.sdm（SDM技術レポート）新規制定、G.698.2（マルチチャネルDWDM）改訂、並びに関連寄書の投稿（SG15、2022年2Q(仮)） ・ JT-L100（地下光ケーブル）新規制定、およびJT-G671（光部品とサブシステム）もしくはJT-GSup41（海底システムデザインガイドライン）新規制定（2022/4Q予定） ・ 光線路技術の標準化動向に関するセミナー開催（2022/3Q）			
関連する専門委員会または外部組織とその内容	・ 伝送網電磁環境およびアクセス網委員会・物理層IFの連携 ・ IEC TC86国内委員・物理層標準の連携			
主な活動項目	概況指標	2022年度目標（当初計画時）	2022年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	-	-	
	外部会合への参加・連携状況	-ITU-T SG15 WP2（2022年9月(仮)） IEC TC86国内委員との連携		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	JT制改訂：2件 ・JT-G.671もしくはJT-GSup41制定（2022/4Q） 【SWG2001】 ・JT-L.100制定（2022/4Q） 【SWG2002】		
④ プロモーション 普及推進	セミナー	TTCセミナー ・光線路技術の標準化動向など（2022/3Q） 【SWG共通】		
	記事投稿、講演会	TTCLレポート活動報告 【SWG共通】		

光ファイバ伝送専門委員会の標準化領域 (ITU-T SG15 WP2)



ITU-T SG15 WP2の所掌課題

各課題のトピック

WG2000とSG15の関係

SWG2001 ⇔ 課題6

SWG2002 ⇔ 課題5・8・16